議員定数削減やめさせよう

自民･維新に国民民主が迎合　重大局面に

与党の独裁加速を狙い、12月12日が会期末の臨時国会中に押し通そうとしている自民・維新の議員定数削減案に国民民主が迎合。重大局面を迎えています。

しかし、定数削減に道理はなく問題だらけ。全商連は断固反対しています。

定数削減・自民案は大問題

１、比例削減で多様な民意切り捨て

削減するのは最も民意を反映する比例の31議席。若者や女性、社会的立場の弱い人など多様な民意が切り捨てられます。

２、修正サンラグ式で少数政党が不利に

「中小政党に有利」とされる修正サンラグ式ですが、最初の１議席を得るためには、現在のドント式より多くの票が必要です。少数政党の議席獲得を困難にする仕組みでもあり、少数政党排除につながります。

３、自･維の議席占有率増で独裁加速

自民案をもとに今年の総選挙結果で計算した衆院全体の議席占有率は、自民が70.97％から71.43％に、維新は7.10％から7.37％に増加します。結局、自民・維新の独裁政治が加速することになります。

４、定数削減の正体は「身を肥やす改革」

日本共産党の宮本徹・元衆院議員は、自民案の定数削減によって、維新の政党助成金が3,000万円増え、現在、国会議員１人当たり4,500万円の政党助成金が4,700万円へと200万円増えると指摘。維新の言う「身を切る改革」は名ばかりで、正体は「身を肥やす改革」です。

日本の国会議員定数は今でも少ない

日本の国会議員定数は国際的にみて少ないのが実態です（右図）。主要国は人口10万～15万人に1人ですが、日本は人口26万人に衆院議員1人です。

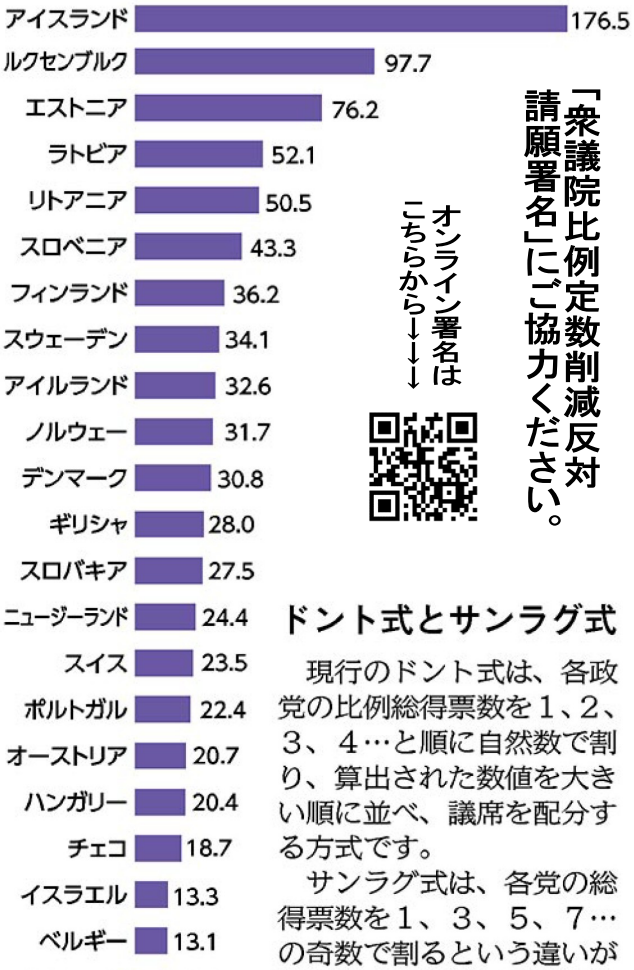
与党は人口減少を反映させると言いますが、1925年の普通選挙導入時は、人口12万人に衆院議員1人として定数は466とされました。現行の衆院定数465は、過去100年で最少です。

本気で「身を切る」というのなら

本気で「身を切る」というのなら、315億円を超える政党助成金こそ削減・廃止するべきです。

自民に献金する軍需大企業を儲けさせる軍拡予算の削減も必要です。

OECD加盟国の人口100万人当たりの議会の定数
（第一院『下院』）（参議院常任委員会調査室・特別調査室「経済のプリズム」No.207から）



図は「しんぶん赤旗」10月25日付より

「衆議院比例定数削減反対請願署名」にご協力ください。

オンライン署名はこちらから↓↓↓

ドント式とサンラグ式

現行のドント式は、各政党の比例総得票数を１、２、３、４…と順に自然数で割り、算出された数値を大きい順に並べ、議席を配分する方式です。

サンラグ式は、各党の総得票数を１、３、５、７…の奇数で割るという違いがあります。ドント式よりも二つ目以降の計算で算出される数値が小さくなるため、中小政党に有利だとされます。今回提案された修正サンラグ式では、最初の奇数（１）を1.4に置き換えます。

各方式の比較

ドント式 定数＝8

	政党	A党	B党	C党	D党
	得票数	50	28	17	9
割る数	1	50.0	28.0	17.0	9.0
	2	25.0	14.0	8.5	4.5
	3	16.7	9.3	5.7	3.0
	4	12.5	7.0	4.3	2.3
	5	10.0	5.6	3.4	1.8
	議席数	5	2	1	0

修正サンラグ式 定数＝8

	政党	A党	B党	C党	D党
	得票数	50	28	17	9
割る数	1.4	35.7	20.0	12.1	6.4
	3	16.7	9.3	5.7	3.0
	5	10.0	5.6	3.4	1.8
	7	7.1	4.0	2.4	1.3
	9	5.6	3.1	1.9	1.0
	議席数	4	2	1	1

全国商工団体連合会